アンコンシャスバイアスの解決

女性活躍推進室
室員　野川悦子

Women in Ministry vol.3　の「学びのコラム」でアンコンシャスバイアス(無意識の偏見)について触れました。少し長い元原稿は教団 HP の女性活躍推進室のコーナーに保存されており、Ⅰ）アンコンシャスバイアスとは何か。Ⅱ）その種類、Ⅲ）それが起こる理由、Ⅳ）影響、Ⅴ）教会、教団にとって大切なこと、を記載しています。アンコンシャスバイアスは多岐に亘って存在し、こどもから大人までが持ち得るものです。この女性活躍推進室ではその中から女性の受ける、あるいは女性が持つアンコンシャスバイアスを多くの方々が気づき、改善出来たらと考えます。以下解決のヒントを上げてみましょう。

解決のヒント１

「無意識バイアスが日本の女性活躍を妨げている」[i]　の著者、篠田真貴子は、その著書の中で、ビル・ゲイツの妻、メリンダ・ゲイツの論文を上げていますが、彼女は女性支援活動を通じて自分の無意識バイアスを自覚するようになり、夫との関係が良くなったと記述しました。(そうなる前にメリンダが夫の 3 か所で行っていた経営の論文の一か所を自分が担当したいと言ったときは夫婦関係が壊れるかもしれないと思うほどの大喧嘩をしたそうですが…。） 妨げとなっていたのは「男は外、女は内」という社会通念でした。メリンダは論文を通し、米国で女性がもっと権限と影響力を持つことで、真の男女のパートナーシップを実現しようと呼びかけています。そしてそのために

① 女性を押し留めてしまっているさまざまな社会慣行をやめる。
② 社会に影響力の大きい重点産業で、女性の人数と影響力を高める。
③ 政府や企業など、既存の仕組みに対し、外部からプレッシャーを与え続ける。

これらのことの重要性を上げました。

解決のヒント 2

著書「7 つの習慣」やリーダー研修で有名な「フランクリン・コヴィー　ジャパン」の「アンコンシャス・バイアス」を改善するプログラムには以下のものがあります。

① バイアスを特定し、行動、意思決定、パフォーマンスに対する影響を認識する。

② 個人的な交流によって共感と好奇心を高め、バイアスを明るみにし、検証していく。

③ 勇気を持ってバイアスに立ち向かう方法を探求し、誰もが尊重され、チームの一員として受け容れられ、大切に思い合う空間を作る。 個人のパフォーマンスや他者のパフォーマンスを抑制するバイアスに対処するための行動に最大限努力をしていく。

これらは組織的、積極的、体験的にアンコンシャスバイアスに立ち向かっていく良い研修となるでしょう。

解決のヒント 3

「あなたにもある無意識の偏見アンコンシャスバイアス」の中で北村英哉は、アンコンシャスバイアスに気づいて、これから脱する為の 7 つのステップを次のように記述しています。[ii]

① 相手と自分を置き換える

相手の立場に立ち、他者から受ける扱いや言葉を疑似体験したり、想像してみることで自然とバイアスが分かってきます。

② 自分を振り返る

自分を客観的に見、第三者の目で自分の理解を検討する習慣をつけておくと、間違った対応をしそうになった場合、すばやく気づけるようになります。時代の流れや周囲の考え方についていけなくなるのは視野が狭くなるからで、自分の考え方を客観視していれば新しい考え方にも柔軟についていきやすくなります。

③ 対話してみる

一般論や自分の中の常識ではなく、その人がどうなのかは対話してみないと分かりません。話を聞き、人の意見を咀嚼して考え、対話を続けていくことで自分も成長していけるでしょう。

④ 多様性を認める

ひとりの人の意見を一般論にせず、それぞれが異なると理解し受け取ります。多様性を認めることは相手を尊重する態度でバイアスから脱する基本になります。

⑤ 自分の得を考える

バイアスを脱するため自分だけ犠牲を払っているという気持ちが強いと、限界が来て長続きしません。アンコンシャスバイアスが是正されて誰にとっても暮らしやすい社会になることは、自分にとっても安心できる社会になることであることを理解します。

⑥ 自分も変われると信じる

習慣化された偏見はなかなか変えられないと感じるかもしれませんが、世の中も生きている人々の意識も変わります。10 年、15 年では世の中はなかなか変わらないように見えるかもしれませんなが、30 年、50 年のスパンで見れば世の中も人々の意識もかなり変化するのです。

⑦ 誰も自分の未来は分からない(未来の安心のために)

世の中にある高齢者差別、高齢者偏見は若い世代におき、高齢になると思考力が弱まると思いがちです。でも実際にはすぐ前の記憶力は減退しますが、考える力が弱まるわけではありません。偏見をなくすためにいつか自分も高齢者になっていくことに気づくことです。突然の事故や病気で途中障害者になる人もいます。福祉が手厚い社会なら自分自身も安心するでしょう。生活保護も自分がある日突然なることもあるのです。自分が安心を得て救われる社会を目指していれば、社会のアンコンシャスバイアスはなくなっていくのです。

AG 教団におけるアンコンシャスバイアス解決

最後にこの **AG 教団組織における**リーダー数の男女差について考えてみましょう。というのは父権制の影響の強いキリスト教会の中で現在の日本 AG 教団は、女性に対して奉仕の場を限定することは少なくなってきていると思わせられるからです。女性であっても男性と同じように正教師になる道が備えられていますし、女性が単身で開拓を任されることもあります。結婚されても教会の牧会や説教を女性教職が担うことはできます。もちろん実際上、地域によっては女性教職ができない働きがあるかもしれませんが、著明なのは教団総会議員や理事、各部長、委員長、神学校運営委員、神学校理事などに占める女性教職の割合の少なさではないでしょうか。

この件に対して考えさせられるのは、2022 年 2 月 15 日付けのグローバルノート[iii]による日本の女性政治家の割合の数値です。それは 14.3%で、191 か国中 153 位という低さでした。女性が大きな組織の運営に関わらないのは、政治に女性が携わらない日本の社会における問題と共通のものがあるのではないかと思わせられます。そしてそこにアンコンシャスバイアスが男女共に働いていると推測するのです。「できない」「やらない」「やりたくない」「能力・賜物がない」「必要ない」これらの思いを男性も女性も払拭して、集団全体の意思決定の場に女性がいること、意見を反映させること、リーダーとしての働きを行うことは大切です。

折しもロシアがウクライナに侵攻しているニュースが世界を震撼とさせています。ロシアも女性政治家の割合は 17.8%で 136 位。多くはありません。ロシアの場合は一人の権力者の影響が極端に出ていますが、国の意思決定が一人に集中せず、かつ政治家の半数が女性であったなら、果たして武力による侵攻がなされたかとも、個人的に偏見でなく思いめぐらされています。

---

[i] 制度だけでは変えられない「無意識バイアス」が日本の女性活躍を妨げている　篠田真貴子
2020 年 11 月号論文電子版　ダイヤモンド社

[ii] あなたにもある無意識の偏見アンコンシャスバイアス参考　北村英哉
2021 年　KAADE 夢新書

[iii] https://www.globalnote.jp/post-3877.html　2022 年 3 月掲載